

# 東日本大震災被災県中学校の取組

宮城県南三陸町立志津川中学校

## 1. 本校の概況（震災時および現在の様子）

平成23年3月11日（金）午後2時46分、三陸沖 東経142度51分6秒、北緯38度6分2秒、震源の深さ24km、マグニチュード9.0の大地震「東日本大震災」が発生した。翌日の卒業式に備え、1・2年生は会場作成中で校舎と体育館で作業をしていた。3年生は、多目的ホールで卒業アルバムにサインを書き合ったり、話し合ったりしていた。これまで経験したことのない大きな揺れに驚く。大きな音を立てて閉まる防火扉、舞い上がる粉塵。直後に停電、断水。生徒は校舎や体育館から学園広場に避難。女子生徒の中には泣き叫び、取り乱す者も出る。人員点呼で登校していた生徒308名全員の無事を確認する。学園広場に避難中、辺りが暗く不気味な空模様になり、横殴りの雪が降り始める。体育館中央に集まって待機するよう指示した。津波の第1波が町の建物という建物を破壊し、白色や黄色の煙が至る所に立ちこめた。津波の第1波が引いた頃、余震も弱くなったので生徒を体育館から教室に戻す。その後、第2波が町を襲う。町全体が湖と化し、水面は異様な程平らになり、鏡のように見えた。第2波は第1波より高さスピードがあり、町全体をみるみるうちにすっぽり覆ってしまった。当日、早退や欠席生徒7名と当日勤務の無かった非常勤講師や町費職員の無事を1週間後に確認する。全校生徒、全職員が無事であった。また、生徒12名は父母のいずれかを亡くし、1名は両親を亡くした。職員1名の父親が行方不明で、職員の親戚等の死亡・行方不明者は多数いた。315名の生徒の中、167名の住居が流失。職員4名の自宅と3名のアパートが流失した。

平成28年1月、震災から間もなく5年が経とうとしている。平成26年4月1日に震災で校舎が津波に襲われた戸倉中学校と統合したが、生徒数は震災前の2校の生徒数に比べ150名ほど減少し223名の生徒が在籍している。そのうち、4割弱の生徒が仮設住宅で生活し、9割弱の生徒がスクールバスを利用して通学している。校庭には、102棟の仮設住宅が建ち、96棟に入居している。

## 2. 学校の写真



### 3. 特色ある取組

本校は、平成25年10月にユネスコスクール加盟し、「志教育」を持続可能な開発のための教育(ESD:Education for Sustainable Development)の軸に据えた学校教育を推進している。特に特色のある取組には、次のものがある

(1) 地域と共に、地域の復興を目指した取組

東日本大震災からの復興に商業、観光から取り組んでいる南三陸町、南三陸町観光協会、商店街と連携して、町興しの事業に積極的に参加している。

(ア) 志津川湾夏まつり福興市「トコヤッサイコンテスト」参加(全学年, 7月)

(イ) 志津川湾鮭・いくらまつり福興市参加(全学年, 11月)

(ウ) ふるさとCM作成ふるさとCM大賞に応募(3学年, 11月)

(エ) 志津川湾寒鱈まつり福興市参加(有志, 1月)

(オ) 志津川湾わかめまつり福興市参加(有志, 3月)

(2) 地域の自然を知り、地域の豊かな復興を目指した取組「森里海連環学」

平成26年度より大正大学との連携により、総合的な学習の時間に「森里海連環学」を実施している。

(3) 地域を愛し、地域の伝統を引き継ぐ取組「郷土伝統芸能伝承活動」

平成26年度に統合した戸倉中学校区で受け継がれてきた郷土伝統芸能「行山流水戸辺鹿子躍」「長清水鳥囃子」の伝承活動に取り組んでいる。

### 4. 取組の写真など



森里海連環学「馬搬」

森里海連環学「森の学習」

伝統芸能継承活動「長清水鳥囃子」



伝統芸能伝承活動「水戸辺鹿子躍」

志津川湾鮭いくらまつり福興市「出店」